令和３年度　自己評価結果

佛教大学附属幼稚園

Ⅰ　幼稚園の教育目標

- 仏教精神に基づく情操豊かな子ども
- 健康で意欲的に活動する子ども
- 身近な環境に関わり、創造する子ども

重点目標

- 仏教精神、特に法然上人のみ教えに基づき、行事・作法を通し生命を尊重する豊かな心を培う。

教育目標の内容

《教育目標の内容》**育自・共育**　～のびのび自分を伸ばし（育自）、なかよく一緒に育つ（共育）
二つの「育」から生まれるすこやかなからだとこころ～

図１

2　本年度に重点的に取り組んだ具体的な計画や目標

〇幼稚園教育要領理解に基づく教育課程・指導計画の充実

〇安全対策の推進

〇子育て支援の充実

3　評価項目

評価項目	取り組み状況
1 教育課程・指導計画の充実 (a)本園教育課程のねらい・指導計画を見直す。 (b) 学年ごとの教育課程のねらいに基づき、子どもの姿に応じて、行事や保育の内容を見直す。	・各学年ともに、月始にねらいを設定し、月末に幼児の姿から環境構成や援助の在り方・ねらいを見直した。引き続き、教育要領で重点が置かれている社会情動的スキル（非認知能力）への理解を深め、教育要領・指導計画のねらいがその育成につながるものとなっているか確認した。 ・日々の記録において、子どもの心の動きに目を向け、そこから読み取れる心の育ちを読み取り、職員ミーティング等で報告し合い、子どもの非認知能力の育ちに対する共通理解を図った。 ・オンライン研修において、全日本私立幼稚園幼児教育研究機構･全日本私立幼稚園連合会等の研修会に参加し､｢誕生からの育ちを支える保育の専門性｣等について学んだ。 ・教育課程をもとに行事や保育の内容が子どもの心の育ちのためのものとなっているか見直した。また、その行事を経験することによって何を育んでいるのか教員間で共通理解したうえで、保護者理解を図った。
2 安全対策 (a) 幼児の安全を確保する観点から、迅速に園内環境の修理・修繕にあたる。 (b)避難訓練を毎月1回実施する。 (c)新型コロナ感染症拡大防止のための対策を講じ、実施する。	・遊具・園舎の点検を行った。老朽化の遊具等については、大学の関係部所と調整し、昨年度に引き続き、修繕（第２期工事）を行った。 ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、全学年での避難訓練は昨年度に引き続き中止。各年齢の発達・経験に応じて、学年ごとに訓練を行った。 ・新型コロナウイルス感染症拡大による緊急事態宣言・まん延防止等重点措置を受け、感染予防に努めた。通常保育においては、間仕切りを置いての食事・トイレ等におけるソーシャルディスタンスの確保・他クラスと合同の活動の制限等の対応を行った。保育内容においても、園外保育・水遊び等をはじめ、感染予防を考慮し、実施方法を見直した。また、長時間バス乗車となる園外保育は中止とした。
3 子育て支援の充実 (a) 園行事・クラス別懇談会において、「大切にしたい育ち」について教員と保護者が意見交換できる機会を設ける。 (b) 子育て講演会・子育てサロン・子育てトークを実施する。 (c)新型コロナウイルス感染症拡大防止対策をしながら、預かり保育を運営する。 (d)新型コロナウイルス感染症拡大防止対策をしながら、親子登園「いちご組」を運営する。	・園行事・クラス別懇談会などでは、各学年における「大切にしている育ち」を伝えるようにした。 子どもの心の育ちを共有できるよう、保育者が保育中のエピソードを紹介した。 ・昨年度に引き続き、れんらくアプリで保育のドキュメンテーションを配信したことは、大切にしている育ちや保育者の関わり方を各家庭に伝える機会となった。また、保護者からもコメントをいただき、子どもの育ちを共有することができた。 ・子育て講演会・子育てサロン・子育てトークは、各行事とも「子どものありのままの思いを受け止めることの大切さ」について学びあうことのできる貴重な機会となった。 ・3密を避けるため、預かり保育に関しては、就労等やむを得ない事情のある方のみを対象として実施した。 ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、7月・10月・11月12月のみ実施した。時間は1時間と短縮し、HPからの申し込みにより人数制限を行った。

４、学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価

今年度も教育目標のもと、「心の教育」の実践に取り組んできた。アンケートの結果から、保護者の方は、図１の図に掲げているような子どもたちの心の育ちを概ね実感しておられる。

今年度も新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、保育内容や行事など調整せざるを得ない状況が続いたが、本園としては、常に「子どもの育ち」にとって何が大切であるかということを、教職員で話し合いながら保育にあたってきた。ありのままの子どもの気持ちを受け止め、子どもの育とうとする力を信じて待つことが、子どもの主体的な育ちにつながるということを実感した。一人ひとりが大切にされ、自己肯定感を抱くことが、あきらめずにとりくもうとする粘り強さや人と関わり合う力につながる。また、年齢に応じて人と関わる喜びを実感できるような取り組みを実践した。一人ひとりを大切にする保育が子ども同士互いの良さに気づき認め合う姿へとつながっている。

そして、懇談会やアプリでドキュメンテーションを掲示し、子どもの具体的なエピソードを伝え、どんな場面で子どもの心が動き、育っていくのかを発信する機会をつくったことが、「子どもの心が育った」と実感する方が多い結果に結びついたのではないかと考える。これからも、子どもたちの生きる力を支えるためにも、自分が自分であってよいことを感じ取れるような保育を展開し、各家庭にその大切さを発信していきたい。

安全対策においては、今年度も、新型コロナウイルス感染予防のための保育環境整備を心掛けた。ウィズ・コロナの社会状況の中で、人生を生き抜くうえで重要となる幼児期の子どもの成長を保障するための保育の在り方を考えていきたい。

子育て支援においては、コロナ禍で、保育者と保護者、保護者同士がつながることが難しい状況が続いている。しかし、子育て講演会、子育てサロン、子育てトークにおいて、一貫して「子どものありのままの気持ちを受け止めること」の大切さを伝えることができたことは、安心して子育てをするための一助となったのではないかと考える。

５、今後取り組むべき内容

課題	具体的な取り組み方法
教育課程・指導計画の充実	・Ｒ５年度幼保連携型認定こども園移行に向け、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づき、教育課程・指導計画を見直し、０～５歳児の全体的な計画作成に反映させていく。 ・学年ごとの教育課程のねらいや子どもの姿を踏まえ、行事の内容を考察し、令和５年度以降の行事に反映させていく。
安全対策	・幼児の安全・健康を確保する観点から、修理・修繕必要個所は迅速に対応する。 ・園内を安全に整備するとともに、令和５年度幼保連携型認定こども園への移行に向けて、０～５歳児までが安心・安全に園生活を送ることができるように施設整備を行う。 ・行政等からの指針に基づき、新型コロナウイルス感染症拡大防止のための対策を立て、園児・保護者・教職員の感染予防に取り組む。
子育て支援の充実	・クラス別懇談会・子育てサロン・子育てトークを、教員と保護者がともに語り合うことのできる機会とする。「幼児期に大切にしたい育ち」について共通理解を図り、保護者自身も喜びを感じながら子育てに取り組むことができるような支援をする。

６、 学校関係者の評価

教育目標に対して総合的な努力をしていると高く評価できる。以下、具体的な評価項目ごとに述べる。

１の「教育課程・指導計画の充実」については、教育要領で重点が置かれている社会情動的スキル（非認知能力）への理解を深めるため、研修会への参加、行事の見直し、日々の保育記録の工夫などの取り組みを行っていることが評価できる。

２の「安全対策」については、継続的に遊具・園舎の点検を実施していることに加えて、新型コロナウィルス感染症対策として、学年ごとの避難訓練、行事や保育内容の見直しなどを実施していることが評価できる。

３の「子育て支援の充実」については、制限を設けながらの預かり保育や感染対策を施しながらの「親子登園いちご組」など、可能な限りの支援を実施していること、また、れんらくアプリなどのツールを使って保護者とのつながりを保つ努力をしていることが評価できる。

今後取り組むべき内容については、令和 ５ 年度「幼保連携型認定こども園」移行への対応が最重要課題だと言えるだろう。具体的には、教育課程・指導計画の見直し、施設の整備、０ 歳児 １ 歳児の発達についての学び、移行の対応に関わる教職員のメンタルケアも重要になると思われる。大学との緊密な協力関係のもと、安定した保育・教育の環境作りを目指すことが望ましいと考える。

≪佛教大学教育学部准教授≫

新型コロナウイルス感染対策で集団活動が行いにくい状況下ではありましたが、 教育目標である「育自・共有」が日々の保育の中で実践され、それが子どもたちの育ちと心の動きに豊かに育まれていたと感じます。

ありのままの子どもたちの姿を伝えることの重要性を意識しながら、アプリやオンラインでの配信をうまく活用し、保護者懇談会においても各学年における「大切にしたい育ち」を共有できるような発信を行っていたことを評価します。

また、子どもの育ちに寄り添うかたちの行事が見直されたことも今後の在り方を見据えた取り組みだと評価します。

≪保護者代表≫